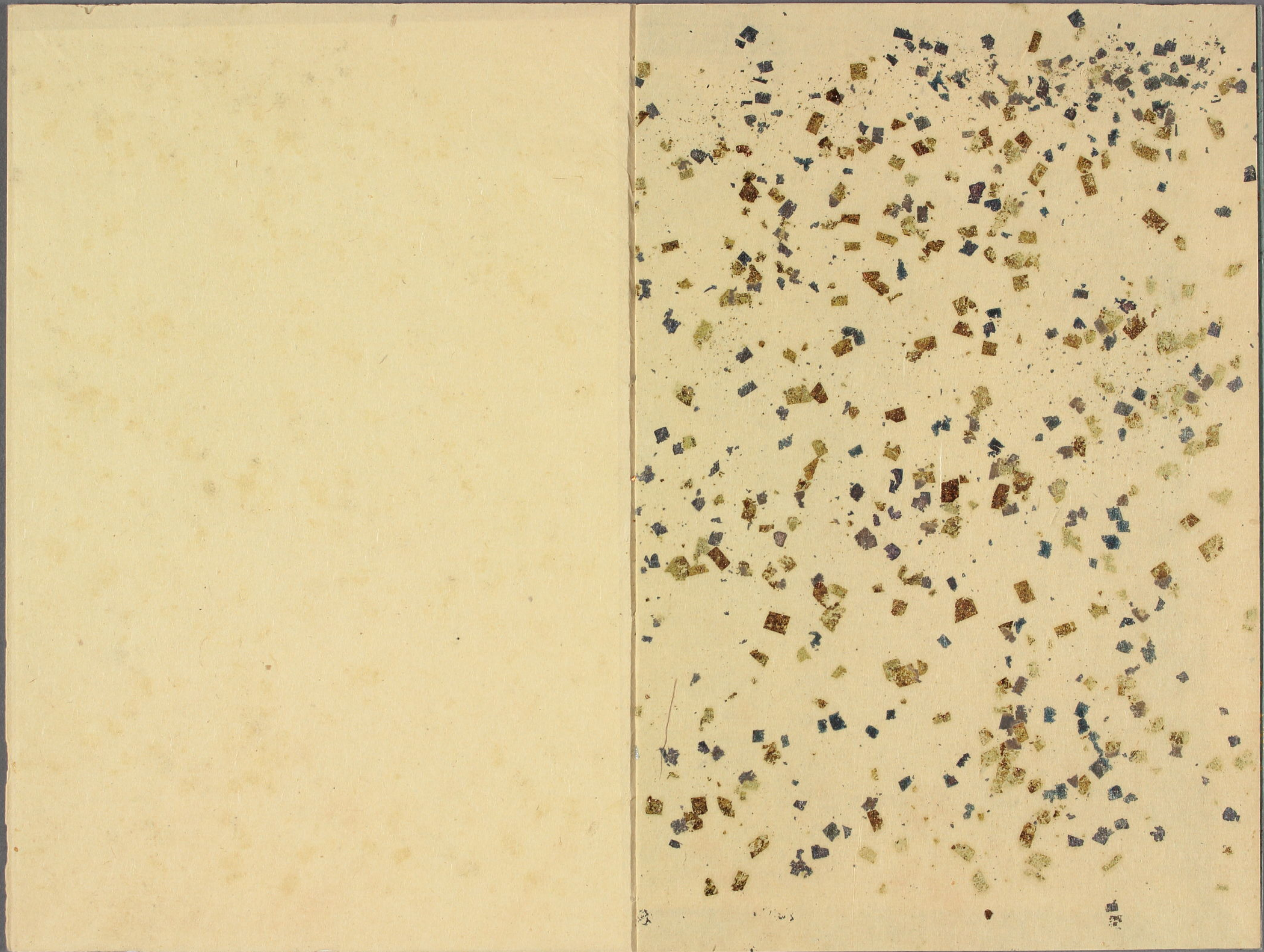


魚水石





多禮初出此妻或後草
無いり青ふして陽あむつる
さ礼二世志と集ありぬ九献
とさむくあふ目出度たむれ
小女童子を羽子鞠雙六以
を玩弄又遊言り安んぬ連子

年をふんと句越十二日福一七
直此らとおはけ是をむ久里
平

美里菴鶴居



千時寛正二正月

部、如比雪目出方、年男

能者乃餅の表より摺

沖の水も殿のともふ葉入

造く、多又直と紙

撫之のまゝに 儀も 礼儀あり

杖よりとれる 秋の 団圓

名月のおははら出 波の音

厚の一羽 通る 一景

そとあふも おもひの中 此み遣

袖の綻裁 一多 直

く合は 同し 名も 此宴

やまゆき 風も 玉也 轉

点割

紫綸中ニツ

旅立のすゝめ

雲のゆるがし

絳帕高顔一ツ

杖ろもたれ

朱一ツ

舌のあせぬ

長四ツ

全

岩手山一ツ

杖ろもたれる

錦木塚一ツ

名ろのかれつら

朱ニツ

沖北舟 丁の一紙

長三ツ

